

日医ニュース

No. 1288
2015. 5. 5



発行所 日本医師会

http://www.med.or.jp/

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16

電話 03-3946-2121(代)

FAX 03-3946-6295

E-mail wwwinfo@po.med.or.jp

毎月2回 5日・20日発行
定価 2400円/年(郵便共)

- 定例記者会見 2~3面
- 都道府県医師会 産業保健担当理事 連絡協議会 4面
- 都道府県医師会だより 5面

トピックス

ダライ・ラマ法王来日記念講演会

知識と技術に加えて

思いやりの心があつてこそ、完璧な医療と言える



ダライ・ラマ法王来日記念講演会（主催：日医、協力：横浜市立大学医学部）が4月4日、日医会館大講堂で開催された。当日は、ダライ・ラマ法王が「医学の進歩と死生観」をテーマに講演した他、横倉義武会長との対談も行われた。

者にとって菩薩であり続けなければならない、そのために努力していかなくてはならないことを改めて実感した」と述べた。

超高齢社会を迎えたわが国に必要な仕組みに関しては、ダライ・ラマ法王が、「高齢化にどう対応していくか」という課題は、多くの国が抱えている重要な問題だ」とした上で、退職後に高齢者が幼稚園で働く機会を設けているスウェーデンの例を紹介。「高齢者に精神的にもいきいきと過ごしてもらうことが、肉体的にも健康でいられることにつながるのではないかと」と、「医師にはその検証をしてもいい、良い方策を提言してもらいたい」と述べた。

更に、人間の生命に、医学・医療はどの程度関わっていくべきかという問題に関しては、ダライ・ラマ法王が、「道徳や倫理観に基づいた行動をしなければ、間違った方向に行ってしまう」と指摘。その道徳や倫理観を身につけてもらうには、幼い時から、子ども達にも分かる言葉で、世俗の倫理観について教育

今回の記念講演会は、多くの日本の医師達と話す機会を持ちたいとのダライ・ラマ法王の強い希望を受け、法王の二十一回目の来日に合わせて、日医が招待する形で実現したものである。

講演会は、今村聡副会長の司会で開会。冒頭あいさつした横倉会長は、「今回の講演の機会を得たことは大変光栄なことである」とした上で、「本日参加の先生方が新たに

得られた知見を医療の実践の中で十分に発揮し、その恩恵を広く国民が享受することを期待したい」と述べた。

その後は、今回の講演会開催に尽力頂いた井元清隆横浜市立大学附属市民総合医療センター教授の進行の下で、ダライ・ラマ法王と横倉会長の対談が行われた。

横倉会長は、ダライ・ラマ法王が講演の中で、「医療者は人の苦痛を除き、人のために尽くす菩薩のような人だ」と発言したことに感謝の意を示すとともに、「法王の言葉を聞いて、医療者は患

「医学の進歩と死生観」

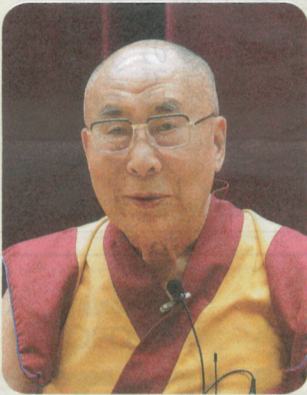
今日お集まりの方々は、人々を助けるために働いている方々であり、仏教の言葉で言えば、皆様方は菩薩と言えます。就労されている人々は、何らかの形で、この世の中に貢献されているわけですが、医療に携わる方々は人間の命を救うという尊敬すべきお仕事に就かれている方々ばかりです。

病院に来る人達は、痛みを苦しみ、それを治して欲しいという思いで来るわけですが、そういう時に皆様方が温かい気持ちで接してくれば、大きな治療効果が生まれ、患者達は新たな人生を始めることができるという気持ちになることさえあるのです。

それではここで、私自身の紹介をしたいと思えます。私自身はこの地球上に住んでいる七十億人の人間の一人に過ぎません。つまり、全ての人類というものは、精神的にも、肉体的にも何ら変わりはない同じ立場にあり、私は一人ひとりの人間を、私の兄弟、姉妹であると常に認識しています。

全ての人は幸せでありたいと願っています。私達には望んでいない苦しみや問題が次々に起きてきます。それは私達自身が非常に狭い視野で、自分の身の周りのことだけを考え、自分さえよければいいという行動をとってしまっているからなのです。

そこで今、なさなければならぬことは、人間は一つの家族であるという感覚を世界に広めていくことではないかと私は思っています。近代社会は互いに依存しているわけで、隣人を破壊するような行為は、自分達も破壊する行為につながるのだということを、人類は今、新たに認識すべきなのです。自分の望みと七十億人の望みは、決して別ではないということを知って頂きたいと思えます。私は、その認識を一般教育を通じて、広く普及させていへば、それが私の第一の使命であると考えています。



次に、私の第二の使命についてです。世界の中には、さまざまな宗教がありますが、その異なる宗教観の調和を図ることが私の使命であると考えています。私は、宗教を信じられている全ての方々に、精神的な姉妹や兄弟であると思っていますし、今は、全ての方々がその宗教観の違いを乗り越えて、調和を図る努力をすべき時ではないかと考えています。

世の中には、宗教という言葉を語りつつ、互いに殺し合ったり、戦争を仕りつめることで、人類に対して問題を引き起こしているという現実もあります。自分の属する宗教以外の宗教を信じる方々にも心からの敬意をもって接する、そして、互いの理解を深めるという努力をしていけば、必ずや異なる宗教観の調和を図ることができると私は信じています。

私の第三の使命ですが、これは、チベット人として、私が果たすべき使命となります。仏教には、「心の科学」と言われる、古代から引き継がれてきた私達の心や意識を、どのようにより良く変容すべきであるかということをお教えしてくれるものがあります。それは現代人を救うことにも役立つものです。

ダライ・ラマ法王／1935年生まれ、2歳の時にダライ・ラマ14世として認定され、1940年に即位。その後、1959年にインドに亡命、インドのダラムサラに樹立されたチベット亡命政権の国家元首となり、チベット民族の国家的、精神的指導者となっている。1989年には、ノーベル平和賞を受賞。